

人材育成事業－先輩経営者との意見交換会が開催

スズキハイテック(株)代表取締役の鈴木喜代壽氏による講演会に全国から若手経営者 21 名が集まる

全鍍連経営委員会主催「先輩経営者との意見交換会」は、「若手経営者座談会」（平成 18 年度まで実施）の後継事業として、平成 21 年度からスタート。第 5 回目を迎えた本年度研修会は、東京都鍍金工業組合めっきセンター（東京都文京区）で実施され、スズキハイテック(株)代表取締役鈴木喜代壽氏より、用意されたパワーポイント資料を用い 1 時間半にわたりご講演を頂いた後、鈴木氏と参加者との活発な意見交換が行われました。

	名前	組合	会社名	役職
講師	鈴木 喜代壽	東北・北海道	スズキハイテック株式会社	代表取締役
参加者	岡崎 千晃	東北・北海道	ジャスト株式会社	
参加者	鹿志村 晃道	茨城	有限会社 カシムラ工業所	生産管理部長
参加者	岡田 洋一	埼玉	株式会社 大倉	専務
参加者	甲斐野 嘉彦	埼玉	株式会社 甲斐野テックス	常務取締役
参加者	福井 通人	千葉	福井電化工業株式会社	専務取締役
参加者	大森 薫	神奈川	株式会社 薄衣電解工業	取締役
参加者	長島 陽一	神奈川	株式会社 第一鍍金工業	代表取締役
参加者	高村 将名	神奈川	有限会社 高村工業所	代表取締役
参加者	大村 和司	神奈川	有限会社 横浜鍍金工業	代表取締役
参加者	宮川 岳大	東京	大森クローム工業株式会社	生産管理課課長
参加者	茅野 一憲	東京	有限会社 双和鍍金	専務取締役
参加者	岩崎 秀雄	東京	有限会社 太陽鍍金工業所	代表取締役
参加者	鈴木 孝尚	静岡	旭屋工業株式会社	代表取締役
参加者	橋本 良太	静岡	有限会社 橋本鍍金工業所	工場長
参加者	落合 康生	愛知	株式会社 エポックオチアイ	品質技術課長
参加者	伊藤 卓	愛知	太陽電化工業株式会社	常務取締役
参加者	水野 光隆	愛知	株式会社 鳴海鍍金工業所	代表取締役
参加者	吉岡 誠	京都	京丹TSK株式会社	
参加者	河合 博	大阪	株式会社 河合鍍金工業所	代表取締役
参加者	中島 秀和	兵庫	日成化学鍍金工業株式会社	代表取締役
参加者	新谷 浩之	中国	新和金属株式会社	代表取締役
全鍍連役員	栗原 敏郎	神奈川	株式会社 大協製作所	全鍍連会長
全鍍連役員	長坂 廣道	大阪	株式会社 ナガサカ	全鍍連副会長
全鍍連役員	神谷 博行	東京	神谷電化工業株式会社	全鍍連経営委員長
全鍍連役員	小林 満	埼玉	株式会社 小林鍍金工業	全鍍連経営副委員長

■はじめに

研修会に先立ち、東京都鍍金工業組合様のご厚意により、東京組合環境科学研究所の長嶋所長並びに斉藤係長により同組合高等職業訓練校並びに環境科学研究所施設の見学会を行いました。参加者一同各施設を見学した後、本研修会に移りました。



説明をする環境科学研究所斉藤係長

■ご挨拶

はじめに開会の挨拶として、神谷委員長が「私自身これまで、色々な先輩方から経営的なこと、技術的なことのみならず、遊ぶこと、呑むこと含め様々なことを学んでまいりました。本日講演される鈴木社長はこれまで大変なご苦勞をされ、大変な努力をされてきた人です。どうぞ本日お集まりの若手の皆様方も今日は多くのことを吸収し、経営のヒントに役立てていただきたいと思います」と述べました。



開会の辞を述べる神谷委員長

■鈴木氏講演概要

— 経験は一生の宝になる —

本日は、遠いところからお集まりいただきありがとうございます。私の経験談などお役に立つかわかりませんが、本日は何か参考にしていただければ幸いです。

●会社概要について

まずは当社につきましてですが、当社は大正3年（1914年）に創業いたしまして、来年でちょうど100年にあたります。当初私の祖父や父は東京でめっきを学び、仏壇金具の銅めっきや自転車の再生めっきなどを行っていたと聞いています。また会社名ですが、当初「鈴木メッキ工業」として操業しておりましたが、1990年に現在の「スズキハイテック」に名前を変えたところ、たくさんの方が応募してくるようになりました。現在123名の社員をかかえております。

会社の基本方針ですが、「めっき業界の日本のスタンダードになること」です。特に地道に利益を積み重ねていくことを重視しています。会社の規模を拡大することにあまり関心がありませんので、当社としては、海外進出は検討していません。

●基本理念について ～愚痴を言わない～

普遍的な考え
(全てのものごとに通じていること)

人とのつながりの大切さ
利益の共有
リスクに備える

普遍的な考え（資料より）

さてここからは私の経験談を中心にお話しをしたいと思います。まずその前に私の普遍的な考えについて3つ申し上げます。すなわち①人とのつながりの大切さ②利益の共有③リスクに備えるという3点です。②については、自身の利益のみ追求するのではなく、顧客や社員との間にも利益を共有するという考え方が重要です。そして③については東日本大震災を経験しましたが、予期せぬ災害にもきちんとリスクを覚悟しておくことが大切だと考えています。さらにこの①～③のベースなる考え方が「常に前向き（ポジティブ）に行動する」ということです。特に「誰々のせいだ！」などと愚痴を決して言わないことがとても重要なのです。このようなときは、「これは神様から与えられた試練なのだ」と割り切ってしまえばよいのです。

●私の経歴 ～人とのつながり～

■ 昭和41年9月
めっき技術を学ぶため研修に旅立つ
昭和41年9月 (株)高岡
昭和42年9月 (株)東平鍍金
昭和43年9月 大森クローム(株)
にお世話になりました。

修行時代（資料より）

さて、私の経歴になりますが大学を卒業後、山形に戻り、最初機械工場でフライス盤・旋盤切削などをやっておりましたが、その後めっき技術を学ぶため、まず父より紹介された東京の(株)高岡様にお世話になりました。当時の高岡幸雄社長からは「信頼」の大切さを教わりました。その後1967年のときに東京のめっき学校に入りました。まさにちょうど今い



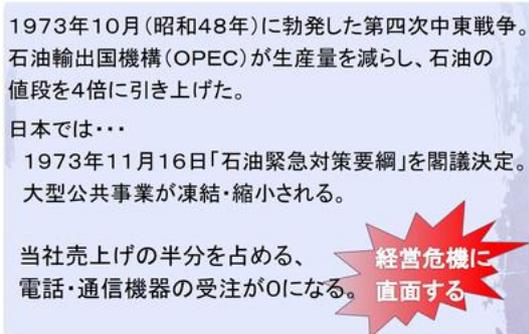
講演会の様子

るこの建物（めっきセンタービル）ですね。この建物が建設された直後の頃になります。さらにその後(株)東平鍍金様で1年間お世話になりました。今では考えられませんが当時はライターの金めっきが主力だったのを思い出します。余談ですが、そのとき総務部で働いた家内と知り合うことになりました。さらに今度は硬質クロムを勉強したいと思い、知人より大森クローム工業(株)様を紹介され、そこでも大変お世話になりました。今でも同社の小口順一郎会長や宮川容子社長に親しくお付き合いさせていただいておりますし、本日この場に宮川社長のご息子の宮川岳大さんにもお越し頂いています。こうして考えてみますと当時お世話になった方々や人間関係が現在に至るまでずっと繋がっていることを実感します。どんな小さなことでもご縁大切にする事で、大きなお仕事に繋がったり、また新しい人との出会いが生まれてくるのです。

●失敗したこと

失敗談のお話をしますと、1967年に大幅に仕事を失ったことがありました。それは、ミシン部品だったのですが、お客さんに10%の値上げを申し入れたところ全量（売り上げの

30%) が同業他社へ転注されてしまったのです。これは同業者との情報が不足していたことが原因だったのではと考えています。またその時の先方の交渉先は担当部長だったのですが、やはりトップとの信頼を築くことが重要であることを痛感しました。



オイルショックに伴う経営危機（資料より）

それから、1973年のオイルショックでは、政府の「石油緊急対策」により、大型公共事業が凍結・縮小され、当社の売上げの半分を占める電話・通信機器の受注がゼロになりました。まさに経営危機に直面した瞬間でした。このときちょうど依頼を受け共同で台湾の高雄にめっき工場の建設を進めておりましたが、ご破算になりました。周囲からは「金がないのに海外なんかで工場を作るからだ！」などと罵られ、これが今でもトラウマになっています。これが冒頭でお話した海外進出に積極的でない理由につながっています。会社は経営が行き詰まり、半分の希望退職を募り打開を図ることになりました。退職金も5年間の分割で支払う状況でした。オイルショックの1年間は給料がゼロです。家内にも迷惑をかけましたね。

さらにその頃、父が脳梗塞に倒れ、別口で父が経営していた木工工場の倒産、さらには父の看病疲れから母が亡くなるなど、悪いことが立て続けに起こりました。不運は不思議

と続くものなのです。

●「傘を貸さない」金融機関

金融機関というものは降る雨に傘を貸してはくれません。その頃、金融機関（信用金庫）に融資を依頼に行ったところ、支店長にけんもほろろにあしらわれたことがあります。その時別の会社社長が丁重に応接間に接待されるのを目の当たりにし、大変屈辱的な思いをしました。「お金がないと金融機関はお金を貸してくれない、だから経営（財務）はしっかりやらなければならない。」利益の貯蓄を重視し、銀行に頼らない自立した経営に踏み出すきっかけとなりました。

●「材料高騰」「環境規制」をチャンスに変える

会社が立ち直る1つのきっかけとなったのは、1978年の銀の高騰でした。半導体のリードフレームが銀めっきから半田めっきへ移行していきませんが、リードフレームの半田めっきの依頼が急速に拡大し、売上高が一気に伸びていきました。資材の高騰は、新たな技術・仕事が生まれるのですね。またその頃、東北パイオニア(株)石島聡一社長と色々お付き合いをさせていただくようになりました。石島社長やパイオニア創業者の松本望会長から様々な経営哲学やヒントを学びました。特に松本会長がお話された「『人間万事塞翁が馬』である。売れると思って開発した商品が売れなかったり、売れないと思った商品がヒットしたりするものである」という言葉も大変印象に残っています。

それから2006年にRoHS指令が施行されましたが、実はこれが当社にとっての大きなチャンスとなりました。RoHS指令によって、半

田めっきが一斉に鉛フリー化となりましたが、半導体鉛フリーラインは、取引先の品質評価が厳しく、すべてのライン監査が実施された関係上めっき設備も認定されました。発注先が固定化され高い単価を頂けることとなり、このときは大きな売上げを得ることができました。後に内製化されてしまいましたが。



講演をする鈴木喜代壽氏

●リーマンショック時の対応

2008年にはリーマンショックがありました。リーマンブラザーズといえど日露戦争時に、日本の国債を引き受けてくれた会社だったのですが、なんと倒産してしまい、これによりアメリカにおける失業率の悪化やビックスリーの瓦解など一気に世界経済が悪化しました。リーマンブラザーズの負債総額は64兆円といわれており、これだけ影響を持つ金融機関をアメリカ政府は潰すべきではなかったのではと私は思っていますが、日本国内の実体経済も大打撃を受けました。そしてちょうどその頃私が全鍍連会長をしていました。私どもの会社も打撃を受け約7割も仕事が減り、先ほどのオイルショックに匹敵するほどの惨状でありました。その時に活用したのが雇用調整助成金でした。これにより国から6割の給料が出て、また社員を2割休ませながら、

なんとか雇用を守ることができました。会社の最大の財産は人材（人財）なのです。

●東日本大震災を被災して

2011年3月11日に東日本大震災がありました。当社の所属している東北・北海道表面処理組合内の他社の工場では、津波により壊滅的な被害を受けられたところがありました。それでも上を向いて、現在は再び操業に至っています。当社においても、サプライチェーンの寸断により大変影響を受けましたが、利益は確保することができました。これはオイルショック・リーマンショックという2度の苦難の経験によるものだと思っています。また、当社ではバブル崩壊の1992年よりリスクへの対応を図り、憂いに備える危急存亡資金（逓増定期保険）の積み立てを実施していたので、自己資本で対応ができたという部分もあります。リスクへの心構えが大変重要なのです。

●「雑草」の如くたくましく生きよ

1990年は世界の10社の中で、6社が日本メーカー NEC、東芝、日立は圧倒的な力を持った。

22年後の2012年、その力は今は無い。



苦戦する日の丸半導体（資料より）

現在、日本の半導体メーカーは大変な苦戦を強いられています。自動車各社は回復を見せ始めていますが、生産の海外シフトにブレーキがかからない状況です。国内の雇用も改

善されず、生活保護受給者が急増しています。いわば最悪な状況です。「生きる」ということは、アスファルトに生える「雑草」なのです。生きるためには、誰にも負けない努力をしなければならぬのです。

最後にお伝えしたいことは、愚痴を言わないこと。歯を食いしばり常にポジティブに生きることが大切です。そして、人とのつながり（ご縁）を大事にし、礼節を忘れないください。本日はご清聴ありがとうございます。

●ご講演総括（資料より抜粋）

世界を席捲した日の丸半導体は苦戦。自動車部品も海外生産が更に拡大してきます。時代はグローバル化し、IT化、金融で大きな変化が起きています。これからの日本のためにも知っておきたいのは、格差社会の現状であり、日本の少子高齢化という構造問題です。

私は、将来の危惧から、平成5年から全社員対象に逡増定期保険に加入しました。「備えあれば憂いなし」これからは、古希を迎え分相応の地道な経営を進めていきたいと思えます。

■意見交換会の概要



質問をする若手経営者

Q1:本日話された鈴木社長の思いや考えなど、普段社員の皆様にどのようにお話されているのでしょうか。

A1:毎週月曜・木曜の朝7:40から8:10まで会合を行っていますが、「万人幸福の栞（しおり）17ヶ条」（倫理法人会）や、「管理者の心得」などを読み合わせたりしています。またそれとは別に月1回会社の業績や会社の問題点などを、パワーポイントを活用しながら社員と共有する機会がありますが、その際にも「今月の言葉」として様々な理念などを発表しています。

Q2:10年・20年後のお話になるかと思いますが、国内工場の海外シフトのお話も先ほどありましたが、御社として海外への進出を真剣に考えなければならない時期が来るかもしれませんが、どのように考えられていますか。

A2:基本的に10年・20年後のことは分かりません。将来を考えると、せいぜい5年くらいでしょう。海外進出の話は今でもオファーがありますが、家内もおりませんし今は行けないですね。スマートホン関連で海外へ進出したが、ビジョンを誤り失敗された経験談も聞いています。技術革新が昔に比べ、スピーディに変化していますので将来予測は難しいですね。海外へのお話は私の子供たちに委ねたいと思えます。

Q3:日本の半導体の競争力が低下している中で、半導体技術者が海外（韓国）へ流失している話がありましたが、どうお考えですか。



質問をする若手経営者

A3：こればかりは仕方ないですね。サムソンのほうが、事実お給料がたくさん出るわけですからね。皆さんにとっては大変な時代になったと思います。自分たちは高度経済成長の時代だったわけですから。皆さんには、この時代に生きるための英知を働かせてもらいたいと願っています。

■閉会の挨拶

最後に閉会の挨拶として、長坂副会長が「今日は鈴木社長の人間味あふれるお話に大変感動をいたしました。私も経営者として、もっと若いときに今日のお話を聞ければよかったのという思いです。皆さん若いですので、本日聞いた鈴木社長のお話を礎にして、今後立派なリーダーシップをとって頂きたいと思います」と述べ、研修会が無事に終了しました。



閉会の辞を述べる長坂副会長

■おわりに(事務局より)

オイルショック・リーマンショック・東日本震災というたび重なる「修羅場」を乗り越え、確固たる信念を築いてこられた鈴木社長のお話は大変説得力のあるものでした。グローバルという荒波に負けないための知恵とヒントが、お話の中にくつも散りばめられておりましたが、鈴木氏の経験談が間違いなく、次世代を担う若手経営者にとって大きな勇気と活力に繋がっていくものと確信しました。

最後に講師を引き受けて頂いた鈴木社長をはじめ、東京都鍍金工業組合環境研究所の皆様、そして東京都鍍金工業組合八幡理事長並びに事務局の皆様にご本誌をお借りして心よりお礼を申し上げます。



鈴木喜代壽氏プロフィール

昭和 19 年 1 月 14 日生まれ(現在 69 歳)。法政大学をご卒業後、昭和 41 年に鈴木メッキ工業株式会社(現在のスズキハイテック株式会社)に入社。昭和 55 年 36 歳の若さで代表取締役社長に就任され、現在に至る。平成 19 年度・20 年度に全鍍連会長に就任し、「ものづくりはひとづくり」をスローガンに掲げ、リーマンショックという未曾有の景気不況の中、業界を力強く牽引されてこられた。平成 19 年に藍綬褒章を受章。現在、全鍍連常任顧問。東北・北海道表面処理工業組合理事。

スズキハイテック(株): <http://www.sht-net.co.jp/>